

自己評価報告書

令和4年度 阪本小学校 自己評価報告書

学校（園）名：中央区立阪本小学校 所在地：中央区日本橋兜町15-18

校長名：小川 優

児童数192名

学級数7

教員数20名

職員数42名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標1 「自ら考え共に学ぶ子どもの育成」

<評価項目> 学び合いや体験を重視した課題解決型学習、個に応じた指導、ICT・プログラミング教育の実施

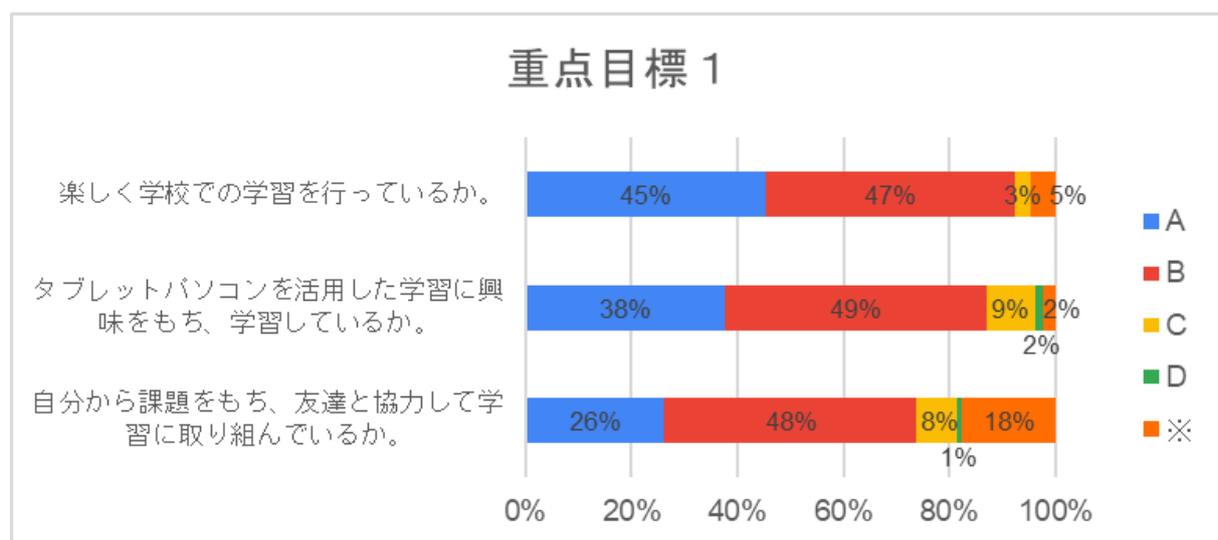
重点目標2 「温かい人間関係を育む活動の推進」

<評価項目> 縦割り活動を中心とした子どもたちの相互のかかわりや元気よい挨拶や返事

重点目標3 「地域の特色を生かした阪本ならではの教育活動を進める」

<評価項目> 日本の伝統文化理解教育、金融教育・キャリア教育、オリンピック・パラリンピック教育の推進

【評価結果グラフ】 A：十分達成している B：達成している
C：改善を要する D：緊急に改善を要する



<重点目標1>

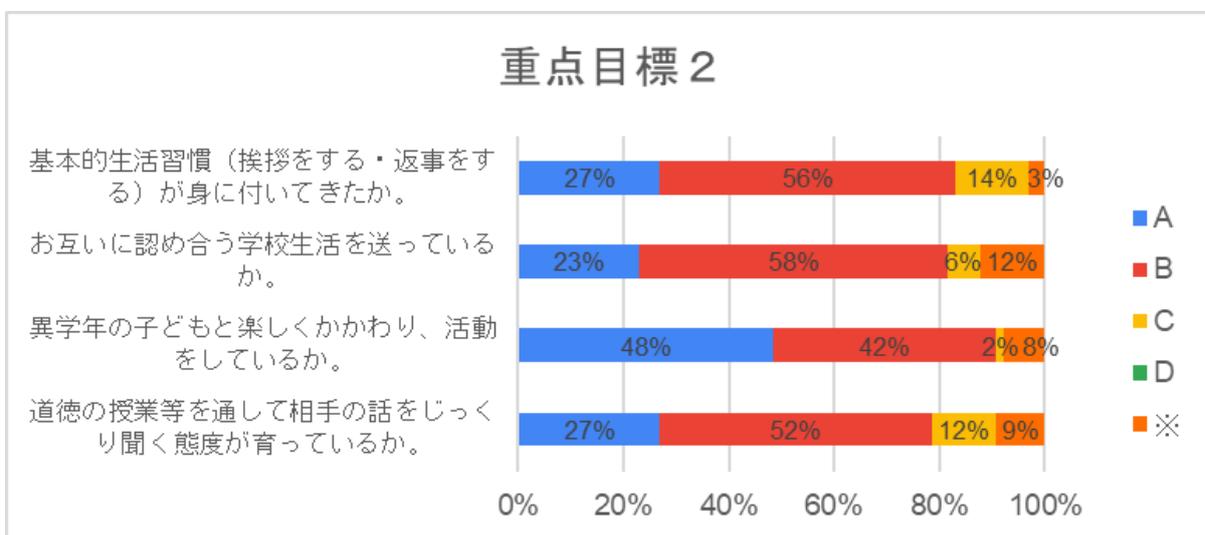
本校はこの6年間、ICT教育・プログラミング教育（令和3年度まで）を研究授業と日常的なタブレットPC活用を中心に強力的に推進し続けている。児童のICT機器の活用意欲は高く、昨年度からは、一人一台のタブレットPCを効果的に活用し、児童の情報活用能力、思考力、判断力、表現力の向上を目指してきた。学年別のICT・プログラミング教育の体系化も確立した。今後も、校内研究を通して、各教科でタブレットPCを効果的、集中的に活用する場面をさらに整理し、一人一台のタブレットPCを最大限に活用していく。今後は新しい教育として、デジタルシチズンシップ教育にも取り組む予定である。また、その場面を学校公開等で積極的にも見せたい、タブレットパソコンの活用の様子を学年通り等でも知らせていきたい。

<重点目標 2>

「基本的な生活習慣（挨拶をする・返事をする）が身に付いてきたか」では、A・B評価が83%（昨年度は84%）C評価が14%（昨年度は15%）となっており、阪本小の最大の課題として取り組んでいるが、昨年度からあまり変化が見られない。

学校では、相手の目を見ること、自分から挨拶すること、立ち止まって挨拶することを生活指導上の重点と決め、年間を通して全教職員で指導してきた。今後も、挨拶の基本を大事にしながら、学校のお客様に対して、あるいは場面や状況に応じた挨拶ができるよう粘り強く指導を続けていく。特に次年度は開校150周年を迎える。挨拶の響き渡る阪本小学校を作っていきたい。

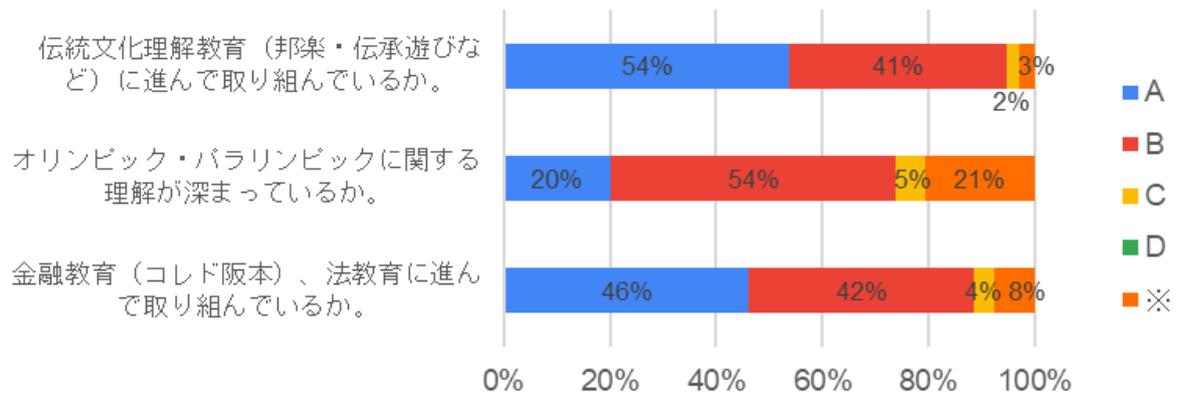
「異学年の子どもと楽しくかかわり、活動しているか」は、A・B評価が91%と高く（昨年度84%）A評価も18%増え改善が見られた。今年度は新型コロナウイルスの感染防止に注意しつつも、2学期から従来の縦割り班清掃を再開し、児童の交流機会も増えた。児童が思いやりの心と友達との信頼感、協力の大切さを体験的に学び取れるよう、引き続きお互いのよさを認め合う活動を増やし、人権尊重教育、豊かな心の育成を進めていく。



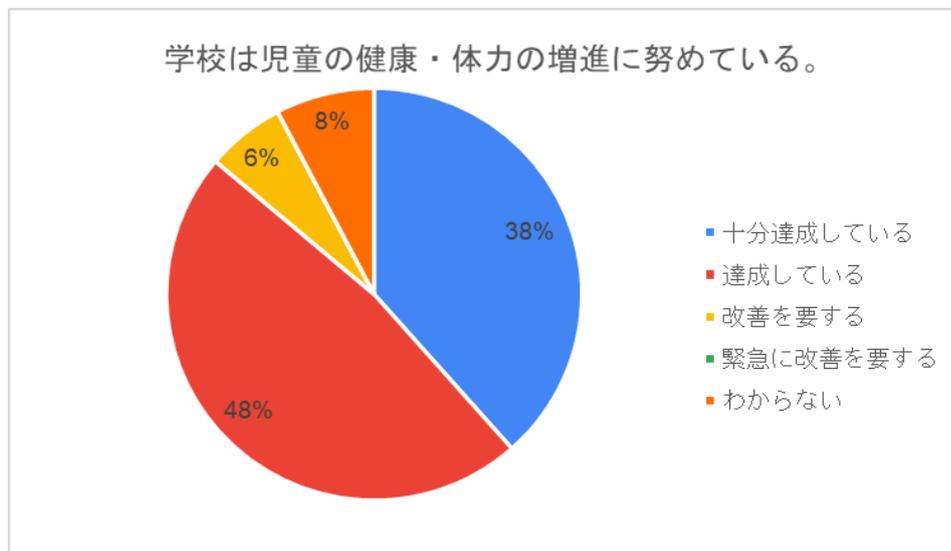
<重点目標 3>

「伝統文化理解教室（邦楽、伝統遊びなど）に進んで取り組んでいるか」では、A・B評価が95%と高く（A評価だけで54%）、昨年度の85%からさらに改善が見られた。邦楽教育は、本校の特色ある教育の一つであり、重要な教育活動である。今年度は新型コロナウイルスの感染防止に注意しつつ、従来の年間を通しての外部講師の招致と邦楽教室がほぼ従来通りに実施できた。学校公開・伝統文化理解教室実施直後の保護者アンケートでも、取組への高い評価が多く見られた。学校としては、活動のねらいや内容の質を落とすことなく改善を重ね、本校の伝統である邦楽教育に引き続き力を入れて取り組み続ける。開校150周年を迎える次年度も、伝統文化理解教室の学習の内容・幅を広げ、児童に発表の機会を設ける予定である。

重点目標 3



2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況



〈児童の健康・体力の増進について〉

コロナ禍で児童の体力の低下を心配している保護者も少なくないと思われる。体力・運動技能の向上は、学力向上と並んで、学校が果たすべき重要な使命である。学校は健康・体力の向上の活動に体育の授業、体育朝会等で積極的に取り組んできた。今年度のスポーツテストの結果を分析すると、各学年で様々な種目で大きな改善が見られた。中央区の中でもトップレベルの水準にあるが、まだ、一部の学年で握力、長座体前屈等で課題が見られる。その克服も含めて、高い体力水準の維持に引き続き力を尽くしていきたい。日常の体育授業の充実、運動の絶対量確保はもちろん、毎年6月に実施予定のスポーツテストに向けても、その実績が向上するよう実践的な練習にも取り組んでいく。

3 今後の改善方策

(1) 情報の発信について

昨年度も課題であった情報発信においては、保護者に積極的に学校の情報を提供すると同時に、今後はよりわかりやすい表記と適切な内容に注意を払い、文章での連絡をしてい

く。また、学校ホームページへの掲載、クラスルームへの投稿、連絡アプリ tetoru での発信をさらに整理し、紙ベースでの配付も行うが、今後は紙の配付は減らしていく方向で進めていく。

(2) 明るく生き生きとした学校生活のために

多くの児童が明るく生き生きと学校生活を送っているが、その一方でそうでない児童がいることは、何としても改善しなければならない。教師は常にアンテナを高くもって児童の様子を注意深く観察し、声をかけ、児童の話に耳を傾ける必要がある。保護者とも連携・協力して児童の悩みや問題の解決に全力をあげていく。